



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/01/18
SDS整理番号 18019350

製品等のコード : 1801-9350、1801-9330

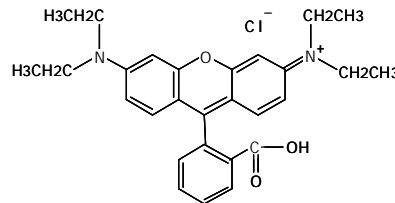
製品等の名称 : ローダミンB

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
ローダミン染料、塩基性染料 など

ローダミン：アミノフェノール類と無水フタル酸を縮合して得られる鮮紅色の塩基性染料。ローダミンB、6G、6GP、3G0などの種類がある。ローダミンBは緑色結晶で、水に溶けて赤色を示す。ローダミン6Gは発がん性がある。ローダミンは、タラコや明太子の染色としても使われる色素である。手に付着すると真っ赤に染まるが、染色されているのは手の表面の油分なのでアルコールなどと一緒に洗剤を使うと、落とすことができる。

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
酸化性固体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分4
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性)

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分3
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分3

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報
飲み込むと有害(経口)
呼吸器への刺激のおそれ
水生生物に有害
長期的影響により水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

粉じん、ミスト、蒸気などの吸入を避けること。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	ローダミンB (別名) ベーシックバイオレット10、C.I. 45170、 9-(2-カルボキシフェニル)-3,6-ビス(ジエチルアミノ) キサンチリウム・クロリド、 2-(3-ジエチルイミノ-6-ジエチルアミノ-3H-キサン テン-9-イル)安息香酸 = クロリド (英名) Rhodamine B、Basic Violet 10、 Tetraethylrhodamine、Brilliant pink B、 9-(2-carboxyphenyl)-3,6-bis(diethylamino) xanthylium chloride (EC名称)、 Xanthylium, 9-(2-carboxyphenyl)-3,6-bis(diethyl amino)-, chloride (1:1) (TSCA名称)
成分	:	ローダミンB
化学式及び構造式	:	C ₂₈ H ₃₁ O ₃ N ₂ Cl、C ₂₈ H ₃₁ ClN ₂ O ₃ 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	479.02
官報公示整理番号	:	(5)-1973
化審法 安衛法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	81-88-9
EC No.	:	201-383-9
危険有害性成分	:	ローダミンB

4. 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてから ゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で上げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの 隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診察を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状: 情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き 起こすおそれがある。)
特有の危険有害性	:	火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境に影響を出不さないう、できるだけ流出を防止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
- : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 - : 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 - : 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
 - : 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
 - : 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項
- : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
- 回収、中和
- : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
 - : 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
 - : 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
 - : 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材
- : 危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策
- : 周辺の発火源を速やかに取除く。
 - : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策
- : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
 - : 粉じんの発生、堆積を防止する。
 - : 手に付着すると真っ赤に染まるが、染色されているのは手の表面の油分なので、速やかにアルコールでふき取った後、石鹸や洗剤を手を洗淨する。
- 局所排気・全体換気
安全取扱い注意事項
- : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
 - : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
 - : 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
 - : 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
 - : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 - : 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避
- : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策
- : 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
- 保管条件
- : 容器は遮光し、光のばく露や高温多湿を避けて保管する。
 - : 容器を密閉して冷暗所に保管する。
 - : 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質
- : 強酸化剤
- 容器包装材料
- : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度
- : 設定されていない。
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）:
- : 日本産衛学会 設定されていない。
 - : ACGIH 設定されていない。
- 設備対策
- : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
 - : 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具
- : 呼吸器保護具（防じんマスクなど）を着用する。
- 手の保護具
- : 保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。
- 眼の保護具
- : 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具
- : 長袖作業衣を着用する。
 - : 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策
- : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 - : 取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態
- 性状
- : 粗い粉末
- 色
- : 褐緑色～赤緑色
- 臭い
- : 無臭
- pH
- : 3-4（1%水溶液、20℃）
- 融点
- : 分解（210℃）
- 凝固点
- : データなし

沸点	: 分解
引火点	: データなし
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対ガス密度(空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: 1.31
比重	: データなし
溶解度	: 水にやや溶けにくい(約1.5%、20)。 エタノールにやや溶けやすい。 ジエチルエーテルにほとんど溶けない。
オクタノール/水分配係数	: データなし
発火点	: データなし
分解温度	: 210
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
酸化性固体	: 塩素を含んでいる有機化合物であるが、アミンとイオン結合している「塩素イオン」のため、酸化性はないと考え、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)	: 通常の取扱条件において安定である。 光のばく露により、徐々に分解する。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と混触すると、激しく反応することがある。
避けるべき条件	: 日光、光、高熱
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、ハロゲン化物

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 マウス LD50 = 887 mg/kg 飲み込むと有害(経口)(区分4) 経皮 分類できない。 吸入(蒸気) 分類できない。 吸入(粉じん) 分類できない。
皮膚刺激性/刺激性	: 分類できない。 なお、自動車修理工場において本物質のパウダーを誤って床にこぼしてしまい、それに30分程度ばく露したヒトが、急性症状(皮膚のいたがゆさ)を訴えたという報告があるが、63%が4時間以内に、全員が24時間以内に症状が消散しており、一時的刺激で、重大な後遺症はないとされている(HSDB(2002)、The EFSA Journal 263(2005))。皮膚刺激性が示唆されるが、その他に区分を特定する十分な情報はない。
眼に対する重篤な損傷/刺激性	: 分類できない。 なお、自動車修理工場において本物質のパウダーを誤って床にこぼしてしまい、それに30分程度ばく露したヒトが、急性症状(眼の熱傷、過度な流涙)を訴えたという報告があるが、63%が4時間以内に、全員が24時間以内に症状が消散しており、一時的刺激で、重大な後遺症はないとされている(HSDB(2002)、The EFSA Journal 263(2005))。眼刺激性が示唆されるが、その他に区分を特定する十分な情報はない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類できない。
生殖細胞変異原性	: 分類できない。 in vivo 試験データはない。また、エームス試験で陽性および陰性、ホエジカの線維芽細胞での染色体異常試験で陽性の結果があるが、エームス試験の陽性は不純物の影響によるとされている(The EFSA Journal 263(2005))。
発がん性	: 区分に該当しない。 IARCではグループ3(ヒト発がん性に分類できない物質)に分類されている。また、ラット及びマウスの長期(約2年)の経口及び経皮投与試験において、本物質に発がん性があるとの証拠は得られていないとの報告がある(IARC 16(1978))。
生殖毒性	: 分類できない。 なお、マウス、ラット、ウサギ、イヌにおいて催奇形性が認められなかったとの報告が複数ある(HSDB(2002)、Birth Defects(3rd, 2000)、Teratogenic(12th, 2007))が、親の性機能、生殖能への影響が不明である。

- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 自動車修理工場において本物質のパウダーを誤って床にこぼしてしまい、それに30分程度ばく露したヒトが、急性症状(鼻の熱傷、胸の痛みや締め付けられるような感覚、咳、呼吸困難、のどの痛み、胸焼け)を訴えたという報告(HSDB(2002)、The EFSA Journal 263(2005))があることから、区分3(気道刺激性)とした。
呼吸器への刺激のおそれ(区分3)
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない。
ラットを用いた18週間の混餌試験(0、0.1、0.25、0.5、1.0 or 2.0% ; 100、250、500、1000 mg/kg/bw)において、最高用量を投与した群に肝障害が認められたとの報告があるが(IARC 16(1987))、いずれも区分に該当しないの投与量であり、このデータのみでは分類できないため、データ不足により分類できないとした。
- 誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

- 生態毒性
水生環境有害性 短期(急性) : 甲殻類(オオミジンコ) 48時間EC50 = 22.9 mg/L (AQUIRE, 2011)
水生生物に有害(区分3)
水生環境有害性 長期(慢性) : 急性毒性区分3であり、急速分解性がない(難分解、BODによる分解度: 0% (既存点検, 1987)) ことから、区分3とした。
長期的影響により水生生物に有害(区分3)
- 残留性・分解性 : 難分解性。BOD分解度 = 0%
生物蓄積性 : データなし
土壤中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : 本品はモンリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) 燃焼法
紙、木屑などの可燃物と共に、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で、できるだけ高温(ダイオキシン発生抑制のため850 以上)で焼却する。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

- 国内規制(適用法令)
陸上規制 : 特段の規制なし(非危険物)
海上規制 : 特段の規制なし(非危険物)
航空規制 : 特段の規制なし(非危険物)
国連番号 : 非該当
国連分類 : 非該当
品名 : 非該当
海洋汚染物質 : 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当
- 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 非該当。

ただし、R8年4月1日以降、次のように該当。

名称等を表示すべき危険物及び有害物
「ローダミンB、対象重量%は 1」
名称等を通知すべき危険物及び有害物
「ローダミンB、対象重量%は 1」
(別表第9)

- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 消防法 : 非該当
- 化学物質排出管理促進法 (PRTR法) : 非該当〔2023年 (R5年) 4月1日施行にも非該当〕
- 船舶安全法 : 非該当
- 航空法 : 非該当
- 水質汚濁防止法 : 生活環境項目 (施行令第三条第一項)
「水素イオン濃度」
〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの
5.8以上8.6以下
・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下
「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
〔排水基準〕160mg/L 以下 (日間平均 120mg/L 以下)
「窒素の含有量」
〔排水基準〕120mg/L 以下 (日間平均 60mg/L 以下)
(注) 排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。
- 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)
HSコード : 3204.13
第32類 染料
・輸出統計番号 (2023年1月版) : 3204.13-000
「有機合成着色料 (化学的に単一であるかないかを問わない。)、この類の注3の調製品で有機合成着色料をもととしたもの及び蛍光増白剤又はルミノホアとして使用する種類の合成した有機物 (化学的に単一であるかないかを問わない。)
- 有機合成着色料及びこの類の注3の調製品で有機合成着色料をもととしたもの : 塩基性染料及びこれをもととした調製品」
・輸入統計番号 (2023年1月1日版) : 3204.13-000
「有機合成着色料 (化学的に単一であるかないかを問わない。)、この類の注3の調製品で有機合成着色料をもととしたもの及び蛍光増白剤又はルミノホアとして使用する種類の合成した有機物 (化学的に単一であるかないかを問わない。)
- 有機合成着色料及びこの類の注3の調製品で有機合成着色料をもととしたもの : 塩基性染料及びこれをもととした調製品」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH	CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP
ウィキペディア	フリー百科事典

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。